

「今の時代」が見えてくる。大学を舞台に言論について考える。

言論の自由とは

関東学院大学 学長 小山 巖也

関内キャンパスは関東学院大学の新たな知の発信の拠点です。

昨年度、4回にわたっての連続シンポジウム開催を受けて、今回は「文藝春秋」の新谷学氏をゲストに、21世紀のSNS時代における出版文化と社会の多様性について議論します。

1923年に人気作家の菊地寛が創刊した『文藝春秋』は芥川龍之介を先頭にしての作家達の活躍により、文学のフロンティアとなり、やがて総合雑誌として揺るぎない地位を築きました。

戦前・戦中の激動の時代に「言論の自由」を貫こうとしたのです。

大学・学問も自由な精神が基盤にあることは言うまでもありません。

しかしながら、今日の日本に真に自由な言論があるのか。大学という「舞台」で語り合います。



シンポジウム参加者略歴

新谷学 株式会社文藝春秋 取締役 文藝春秋総局長

1964年、東京都出身。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1989年文藝春秋に入社。

「スポーツ・グラフィック ナンバー」編集部、「週刊文春」編集部、月刊「文藝春秋」編集部などを経て、2012年4月「週刊文春」編集長に就任。2018年より週刊文春編集局長として、新しいビジネスモデル構築に従事。2021年7月「文藝春秋」編集長（執行役員兼務）。2023年6月取締役 文藝春秋総局長就任。

著書に『週刊文春 編集長の仕事術』（ダイヤモンド社）、

『獲る・守る・稼ぐ 週刊文春「危機突破」リーダー論』（光文社）などがある。

富岡幸一郎 関東学院大学 国際文化学部教授・文芸評論家

1957年、東京都出身。中央大学文学部仏文科卒業。1979年「意識の暗室 埴谷雄高と三島由紀夫」で、第22回群像新人文学賞評論部門を21歳で受賞。以降、そのキャリアを生かし、文芸評論家として活躍。

著作に『内村鑑三』（中央公論新社）、『使徒的人間 カール・バルト』（講談社）、

『危機の時代の宗教論』（春秋社）、『入門三島由紀夫 文武両道の哲学』（ビジネス社）、

『石原慎太郎 時の時』（ビジネス社）などがある。神奈川近代文学館理事。

岩崎達也 関東学院大学 経営学部教授

1956年、群馬県出身。1981年博報堂に入社。コピーライターとしてカネボウ化粧品、サントリー、JRA、

ブリヂストンなどの広告企画・制作。1992年日本テレビに転じ、編成部番組企画、宣伝部長、編成局

エグゼクティブディレクター、日テレアックスオン執行役員などを歴任。日本テレビブランディング統括。

2015年より九州産業大学商学部教授、2018年4月より現職。著書に『日本テレビの、1秒戦略』（小学館新書）、

『メディアの循環 伝えるメカニズム』（生産性出版）などがある。「読売広告大賞」、「グッドデザイン賞 2001」等受賞。



総合司会 半田あい



会場アクセス

JR・横浜市営地下鉄「関内駅」より徒歩2分
〒231-0031 横浜市中区万代町 1-1-1

お申込に関するお問合せ

関東学院大学 社会連携センター

Mail : relation@kanto-gakuin.ac.jp

Tel : 045-786-7744